

井上靖と台風

山本周五郎と明治40年の水害

震災と秋田雨雀

3.11

軽井沢文学にあらわれた浅間山の噴火・噴煙

かわるもの、かわらないもの——3.11と詩歌

震災に見るドナルド・キーンのあゆみ

文学に見る震災資料展  
—佐藤通雅の震災詠でたどる東日本大震災—

『美しい星』と人類救済の試み

いわきの震災語り部

福井ゆかりの作家と東日本大震災

天災地変と文学

司馬遼太郎と阪神淡路大震災

昭和三陸大津波の爪痕

再起するちから—『花狩』にえがかれた庶民の叡智—

森鷗外と明治・大正の災害

与謝野晶子と関東大震災

文人たちの震災

自然災害と人間の営み  
—「三陸海岸大津波」と「関東大震災」—

森鷗外文学に見る天災地変

震災を書く

文学で読む関東大震災展

林芙美子と関東大震災

中也の関係者が語る関東大震災

武者小路実篤と天災

3.11 あの日を語り継ぐ 2018

関東大震災と神奈川

寺田寅彦と地震VI

中世鎌倉の天災地変

震災後の文学と復興への道のり—3.11と九州の災害

# 文学館からのメッセージ

この全国文学館協議会の共同展示は、二〇一一年三月十一日の東日本大震災を契機に開催されました。死者に対する鎮魂と被災者への慰謝を願う心から、当時の会長中村稔氏の提案に賛同した文学館が二〇一三年三月一斉に展示を始めました。

東日本大震災は、地震・津浪という自然災害に加えて、原子力発電施設のメルトダウンによる放射能汚染が深刻な影響を多方面に与えています。放射能の除染の効果も上がらず、汚染水の処理も今だにコントロールできずにいます。

県外に今なお多数の人々が避難しており、「帰還困難区域」や「居住制限区域」が残っているため、ふるさとに帰還できません。

人は過酷な体験を、記憶から消し去ろうとします。そうであっても記憶は時間に洗われ変容し、忘却していきます。

多くの表現者が大震災を直視し、多彩な表現を紡ぎ出してきました。それらの表現を収集し、展示し、保存していくことも文学館の責務であると考えます。

ここに全国文学館協議会の各館は、この未曾有の大災害を直視し、記憶に止め、死者たちへの鎮魂と哀悼、被災者への慰謝とコミュニケーションの復興を願って、共同展示を開催いたします。

二〇一八年一月

全国文学館協議会 会長

山崎一穎